



IR Day ~Joy and Fun for Investor~

株式会社堀場製作所

2024年6月26日

本日のアジェンダ

■ Opening ・ MLMAP2028

株式会社堀場製作所 シニアコーポレートオフィサー 堀場 弾

■ HORIBA半導体の歴史

株式会社堀場製作所 取締役 小石 秀之

■ 先端材料 ・ 半導体

株式会社堀場エステック コーポレートオフィサー 宮本 武志

■ バイオ ・ ヘルスケア

株式会社堀場製作所 バイオヘルスケア本部 本部長 野村 尚之

■ エネルギー ・ 環境

株式会社堀場製作所 ジュニアコーポレートオフィサー 森 春仁

■ サステナビリティ ・ 人財

株式会社堀場製作所 ジュニアコーポレートオフィサー 森口 真希
グループ戦略本部 副本部長 上杉 英太



IR Day Opening ・ MLMAP2028

株式会社堀場製作所

シニアコーポレートオフィサー 堀場 弾

2024年6月26日

Our Future

Vision

Joy and Fun for All
おもしろおかしくをあらゆる生命へ



Our Futureの実現に向けてHORIBAが注力する3つのフィールド

エネルギー・環境

バイオ・ヘルスケア

先端材料・半導体



Mission

ほんまもんと多様性を礎にソリューションで未来をつくる



Values

チャレンジ精神

誠実と信頼

卓越の追求

MLMAP2028の位置づけ

MLMAP2023
(2019-2023)

MLMAP2028
(2024-2028)

「MAXIMIZE VALUE」

自動車

環境・プロセス

医用

半導体

科学

人財

エネルギー・環境

バイオ・ヘルスケア

先端材料・半導体

サステナビリティ

- 3つの注力分野における社会課題解決をめざす事業戦略
(フィールドオペレーション)
- ホリバリアン*の力を最大限引き出す人財戦略
- ソーシャル・インパクトを生み出すサステナビリティ戦略

ビジョン

Joy and Fun for All
おもしろおかしくを
あらゆる生命に

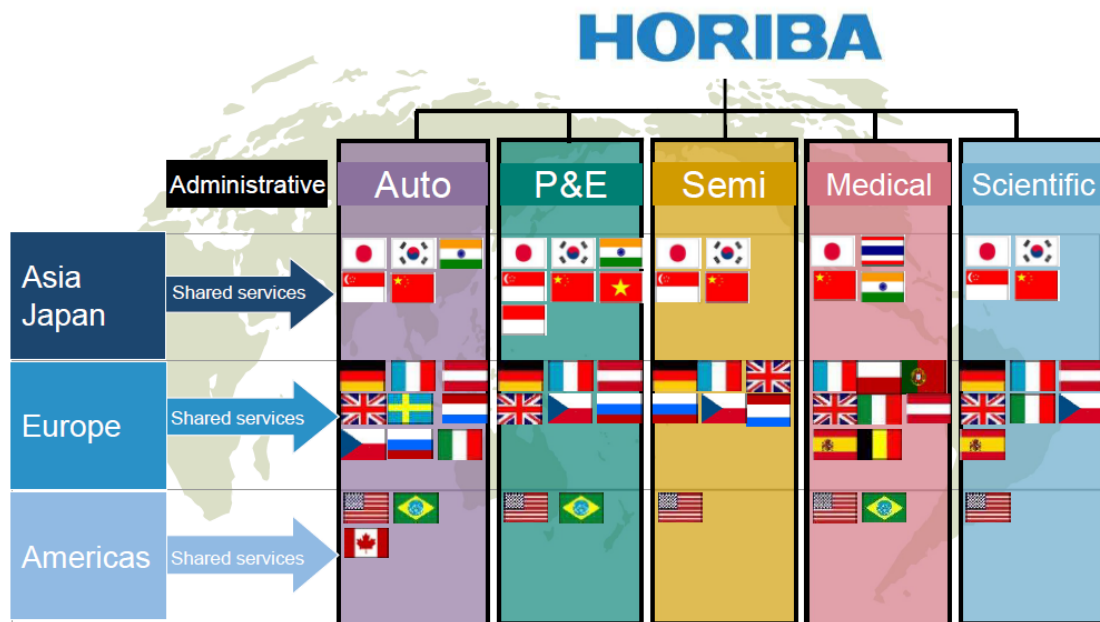
ミッション

ほんまもと
多様性を礎に
ソリューションで
未来を創る

*ホリバリアン…HORIBAグループの全従業員の呼称。同じファミリーであると考え、このように呼んでいます

フィールドオペレーションのあゆみ

2004～2018年
5つのセグメントと地域のマトリクスによる
One Company Operation



2019～2023年 (MLMAP2023)
クロスセグメントの推進
Market Oriented Business

重点施策1:「Market Oriented Business」



メガトレンドをリードする3フィールドに
コア技術を活用した分析・計測ソリューションを展開

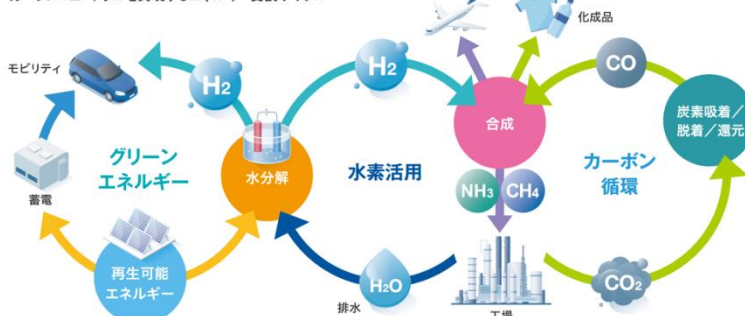
マーケット	Energy & Environment	Materials & Semiconductor	Bio & Healthcare
主な対象	モビリティ、発電、環境改善、水	先端材料、半導体素材	臨床検査、製薬、創薬、細胞、遺伝子
対応する事業セグメント	自動車計測 環境・プロセス	半導体	医用
	科学		

事業セグメントの枠を超えた「クロスセグメント」は
事業領域を超えたシナジーを創出

クロスセグメントにより再定義された3つのフィールド

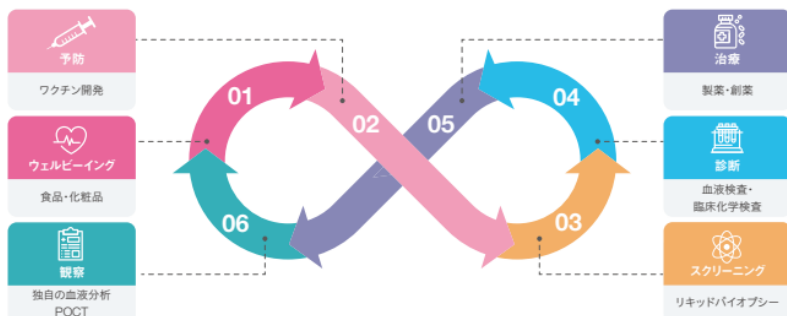
エネルギー・環境

カーボンニュートラルを実現するエネルギー変換サイクル



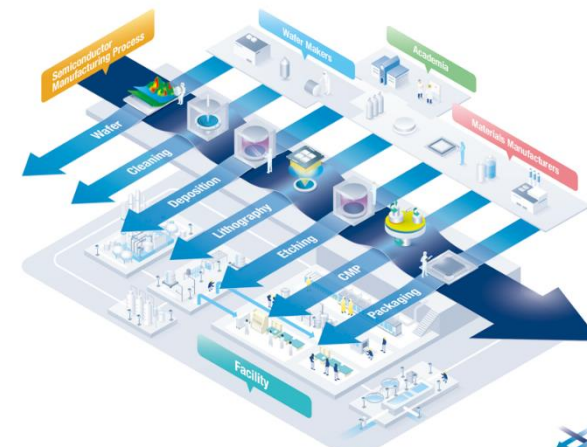
カーボンニュートラルに貢献

バイオ・ヘルスケア



ヘルスケアジャーニーの変革に貢献

先端材料・半導体



ウーブンバリューチェーンにおける技術革新に貢献

自動車、環境、医用、半導体、科学という各セグメント製品の販売を拡大させるだけではなく、3つのフィールドに対してあらゆるリソースを活用し、HORIBAにしかできないソリューションを提案

HORIBAのコア技術



MLMAP2028 ゴールイメージ



MLMAP
Mid-Long Term Management Plan
2024-2028

MAXIMIZE VALUE

HORIBAの多様な技術を
グローバルマーケットに有機的に提供する



1. 新たな事業機会の発掘
2. マーケットのニーズに応じたソリューション拡充
3. グローバルでの戦略の実行
4. コア技術の深耕

MLMAP2028 運営体制

MLMAPリーダー



中村 博司

開発戦略



堀場 弾

MLMAPリーダー



森口 真希

人財・サステナビリティ
戦略

フィールドオフィサー



George Gillespie

エネルギー・環境



足立 正之

バイオ・ヘルスケア



小石 秀之

先端材料・半導体

MLMAP2028 主要な経営目標

財務目標

売上高

4,500億円

(2023年実績：2,905億円)

営業利益

800億円

(2023年実績：472億円)

当期純利益

550億円

(2023年実績：403億円)

ROE

12%以上

配当性向 **30%**

機動的な株主還元
特別配当・自社株式の取得

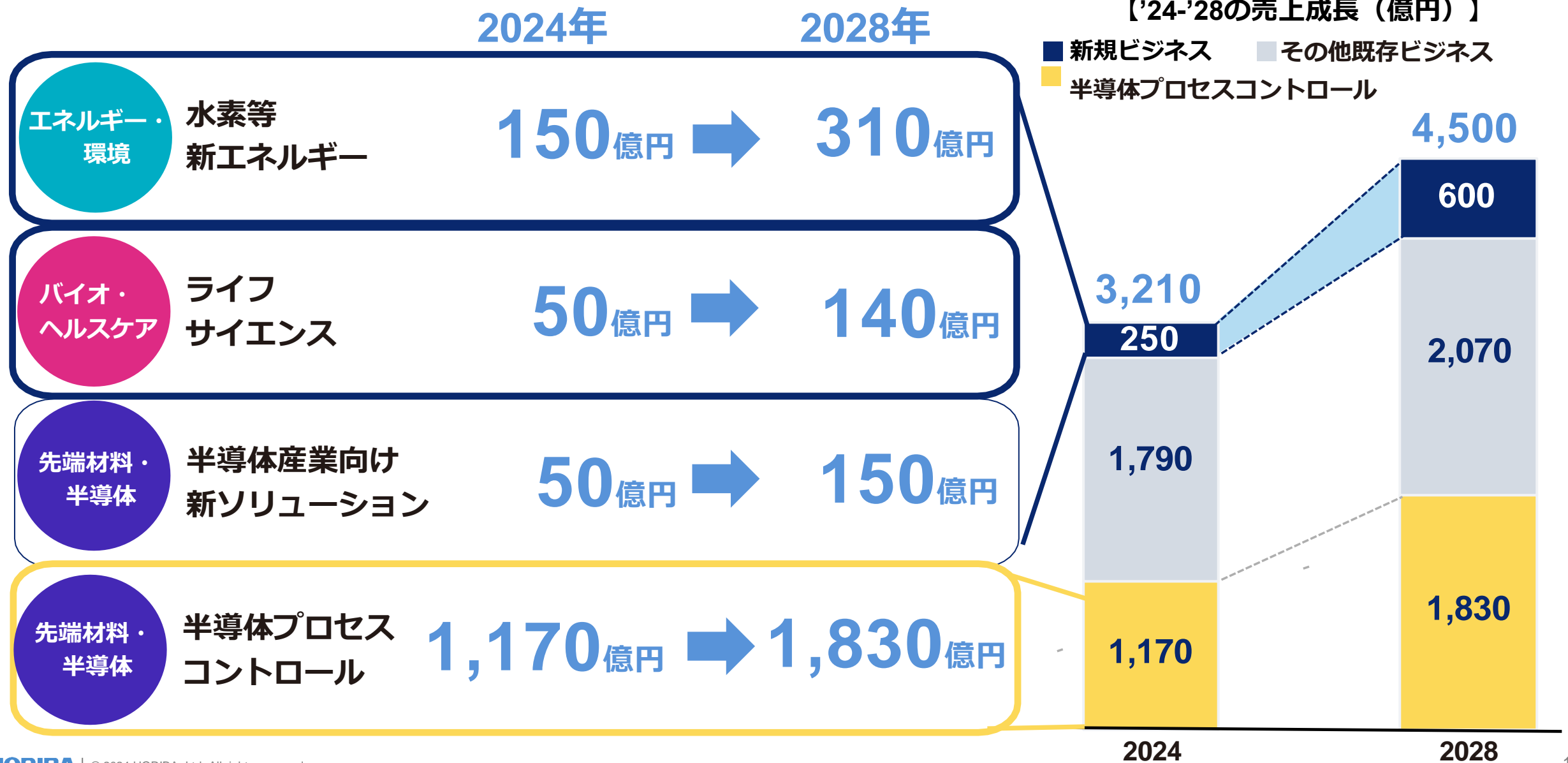
非財務目標

全ホリバリアンによるバリュー実践
「ほんまもん」の価値創出

2050年 カーボンニュートラル
2032年 CO₂排出量42%削減
(Scope 1, 2)

コア技術の深耕
新規ビジネス売上高
600億円 (2028年)

MLMAP2028 3つの成長ドライバー





HORIBA半導体の歴史

株式会社堀場製作所
取締役 小石 秀之

2024年6月26日

半導体セグメント売上推移と供給力強化



2019年クリーンルーム拡張



2021年 移転・生産エリア拡張



2022年 新社屋完成

1984年
異物検査装置PDシリーズ
完成

1992年
薬液濃度モニター
CS-1 完成

2003年度実績：143億円

2023年度実績：1,128億円

2003年
リノ開発部設置 (米国)

2011年
ホリバメトロン社設立 (中国)

2013年
京都福知山テクノロジー
センター開設

2015年
HORIBA 最先端技術
センター竣工 (京都)

2018年
リノテクノロジー
センター開設 (米国)

1986

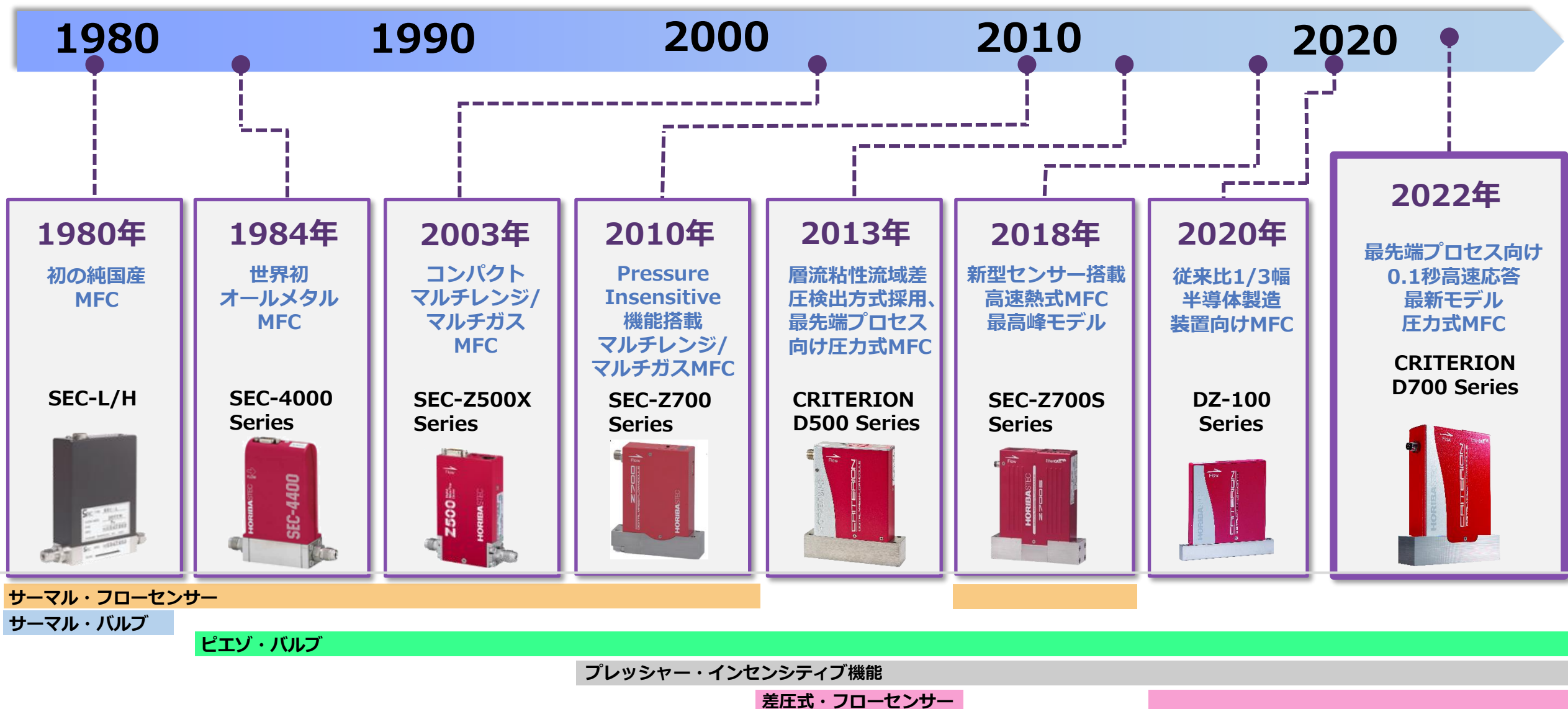
1993

2003

2013

2023

マスフローコントローラーの進化

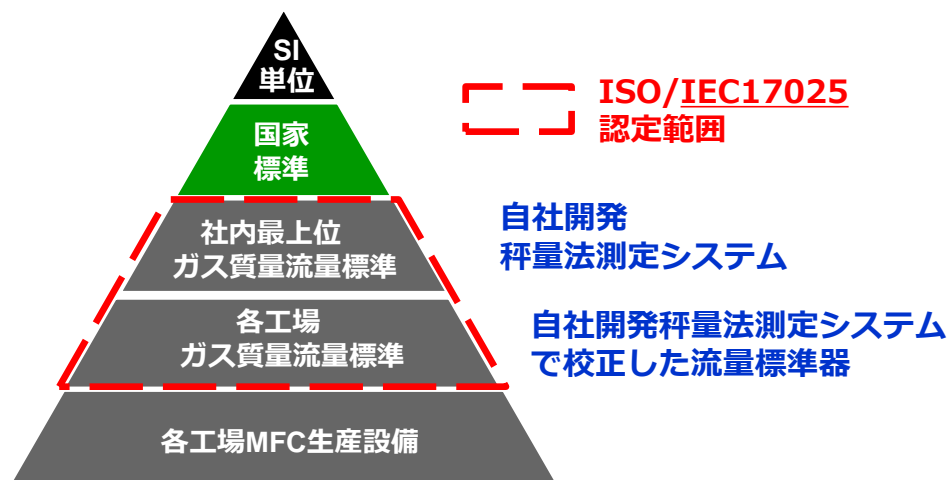


福知山テクノロジーセンター（ISO/IEC 17025 の認定）

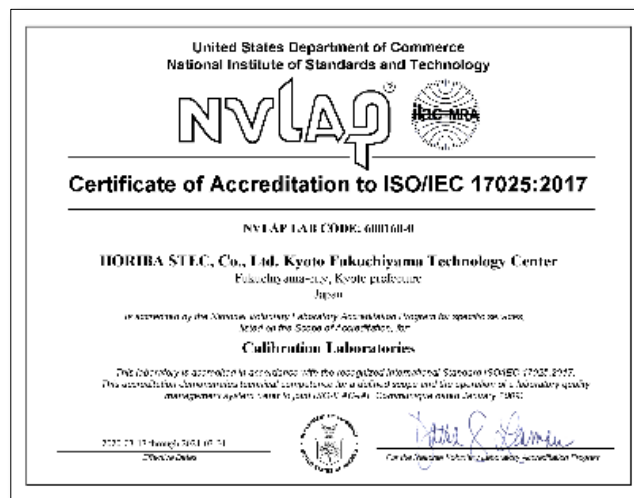
流量標準技術の確立と正確さの向上に向けた取り組みを継続

- 独自の流量計測技術「天秤法測定システム」の開発により一次流量標準器を保有し米国標準技術研究所（NIST : National Institute of Standards and Technology）とのトレーサビリティを確立
- 米国標準技術研究所（NIST）の試験所認定プログラム（NVLAP）より ISO/IEC 17025 に基づく認定を取得（認定番号 : NVLAP Lab Code 600160-0）
- 実ガス流量測定システムの開発及び運用により、様々なプロセスガスの高精度流量測定を実施

認定後のトレーサビリティ体系



NVLAP認定証明書



秤量法測定システム



※ISO/IEC 17025
品質面における運営システムの要求事項+試験・校正実施に必要な技術管理の要求事項



先端材料・半導体フィールド

株式会社堀場エステック

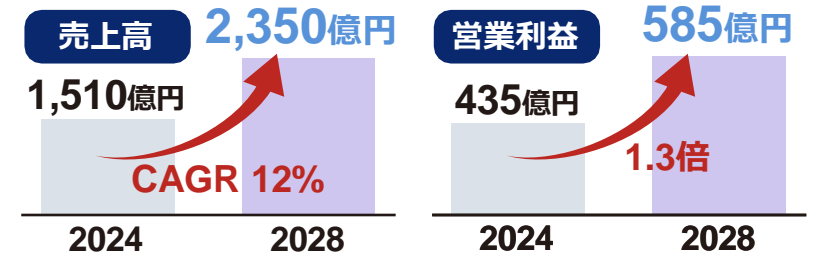
コーポレートオフィサー 宮本 武志

2024年6月26日

ビジョン

持続可能な社会実現に向けて、
先端材料・半導体分野への
革新的なソリューションで市場を形成する

売上高/
営業利益



重点事業領域

半導体製造プロセス、関連先端材料、ファシリティが互いに関係するバリューチェーンマトリックス「**ウーブンバリューチェーン**」における技術革新に貢献。先端材料分野等に最先端のソリューションを提供し、全方位でお客様のオペレーションをサポート。

事業戦略

- ・ 供給量向上で、シェアを維持・拡大
- ・ 半導体プロセスモニタリング分野の強化
- ・ 半導体材料分野に先端分析技術を応用
- ・ 先端材料の研究、生産、リサイクルの分野にリソースを集中

■ウーブンバリューチェーン

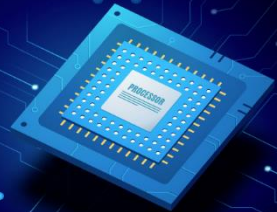


ファシリティの排ガス/廃液監視に至るまで、
全方位で半導体産業をサポート

最先端半導体プロセスへの貢献
高付加価値なコンポーネントや
モジュール製品による
ソリューション提供

HORIBAがカバーする
半導体プロセスコントロールドメイン

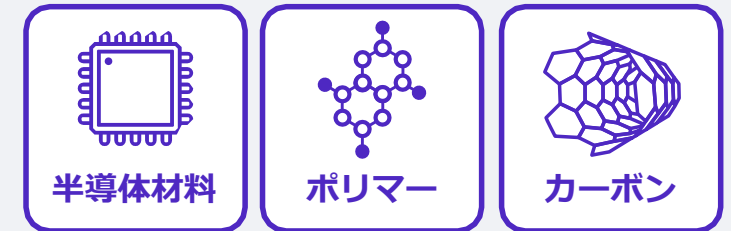
- 流体計測、制御
- 液体材料気化
- 圧力制御
- 真空計測
- 薬液濃度計測
- プラズマ計測
- 温度測定



薄膜計測技術を用いた
半導体プロセスモニタリングや
半導体工場の環境モニタリング等
ファブ全方位型ソリューションの開拓



先端材料開発・
材料生産プロセスへの貢献
HORIBAグループの分析技術を
集約したソリューション提供



最終製品のマーケットドライバ

世界のデータ量が増加し、デジタル化と半導体が市場を牽引

IoT

Smart City

遠隔医療・予防診断

CLOUD

AI

Mobility

Smart Fab

5G/6G

Device

AR/VR/MR

Metaverse

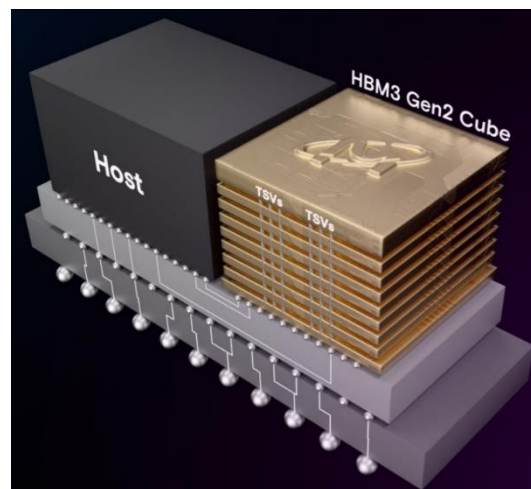
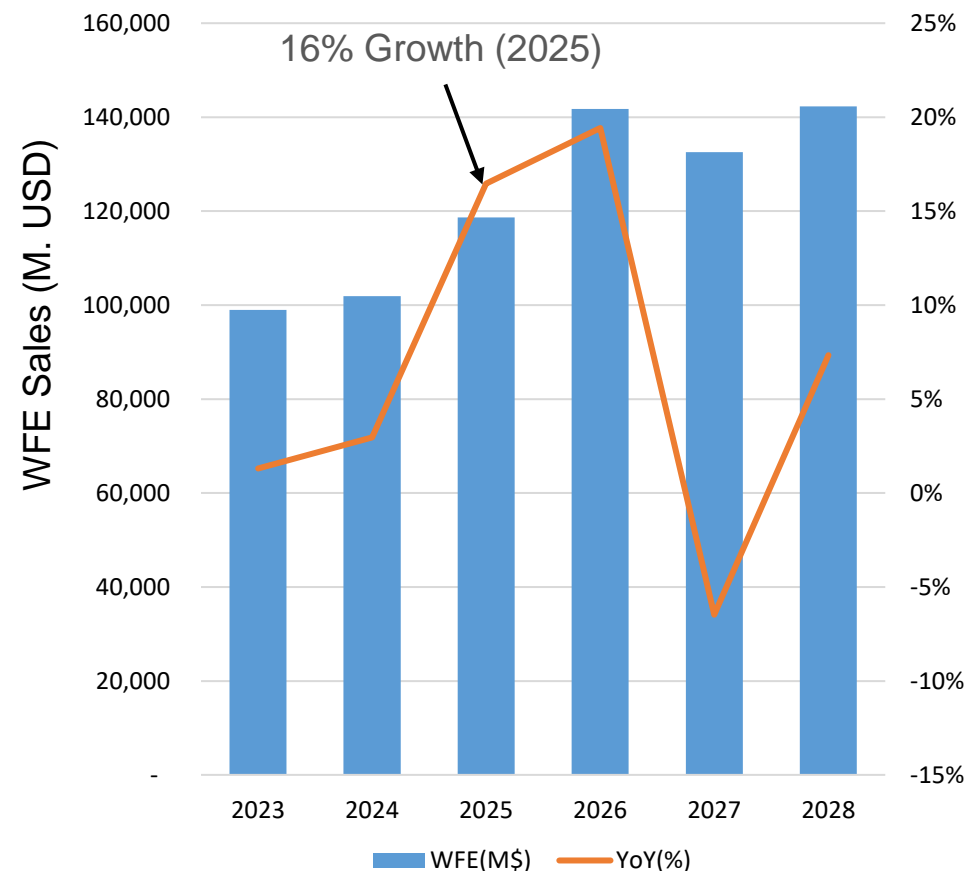
市場環境 SEMIマーケット

HBM: High Bandwidth Memory
WFE: Wafer Fab Equipment

2025年には>15%成長を見込む AI用HBMメモリーが市場を牽引

半導体製造装置市場(WFE)

Source: Techinsights Total Fabrication Equipment_v24.03



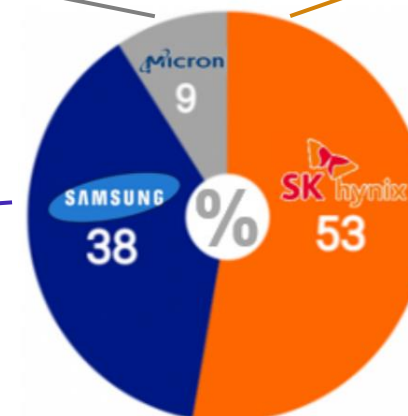
HBM3

- 8~12枚 DRAMダイ積層
- TSVを用いたパッケージング
→ 新たなボンディング技術
→ CMP / TSV Etchingプロセス増加

HBM シェア (HBM3) および 関連投資計画

Micron: 「HBM4」 研究開発に向けて経産省から最大1,920億円の助成金

Samsung: 24年にHBM生産能力を昨年比3倍以上へ増強計画



SK Hynix: HBM/DRAM生産基地となるM15Xに総額20兆ウォンを投資予定



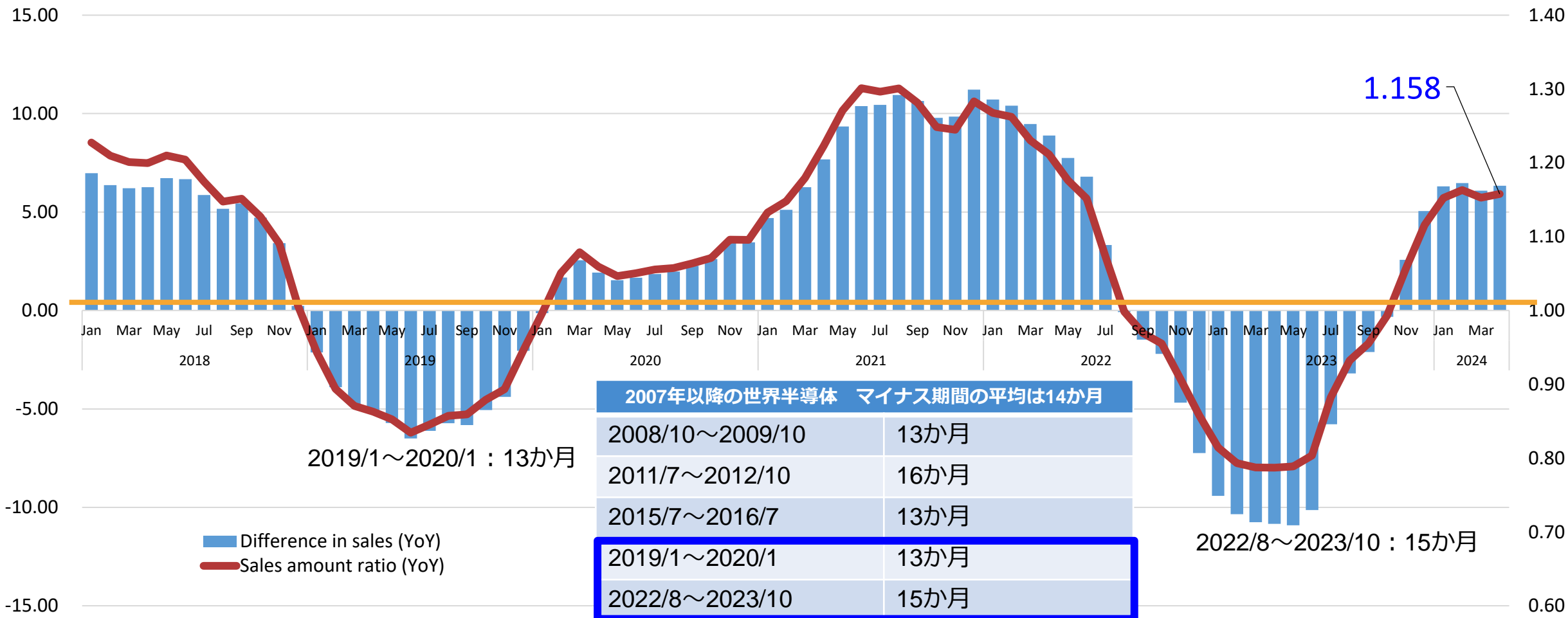
世界半導体トレンド

SIA = Semiconductor Industry Association

1977年に、Intel、Fairchild Semiconductor、National Semiconductor、Motorola、AMDの5社が中心となって設立された米国半導体工業会

世界半導体売上高の前年同月比では既に市場ボトムは脱している

SIA 前年同月との半導体売上高差トレンド



HORIBAの半導体事業戦略

BCP(Business Continuity Plan) = 事業継続計画
GWP(Global Warming Potential) = 地球温暖化係数

MFCビジネスを取り巻く環境

政治

- 米中対立による輸出制限とサプライチェーンの不安定化
- 半導体の安定確保を目的に各国政府による投資活発化

経済

- 生成AI等の新分野での半導体の需要増加/市場拡大の予測

社会

- Zero Emission2040年目標
- 環境規制物質の増加プロセスで使われる高GWPガスの削減&置換

技術

- デバイス構造の微細化・多層化に伴い、新材料を用いたプロセス開発
- AIを用いた製造プロセス改善

安定供給

- 新工場投資により生産能力拡大
- 2nd サプライヤ体制の確立、海外生産能力の確保によるBCPの強化

技術開発

- 新ガスの計測・試験設備拡大
- 新ガスへ特化した製品開発強化(耐食性向上など)

技術交流

- Global R&D強化。大手のデバイスメーカー・装置メーカーとの技術交流を強化し、先端の要望を反映した製品開発へ

Push-Pull営業

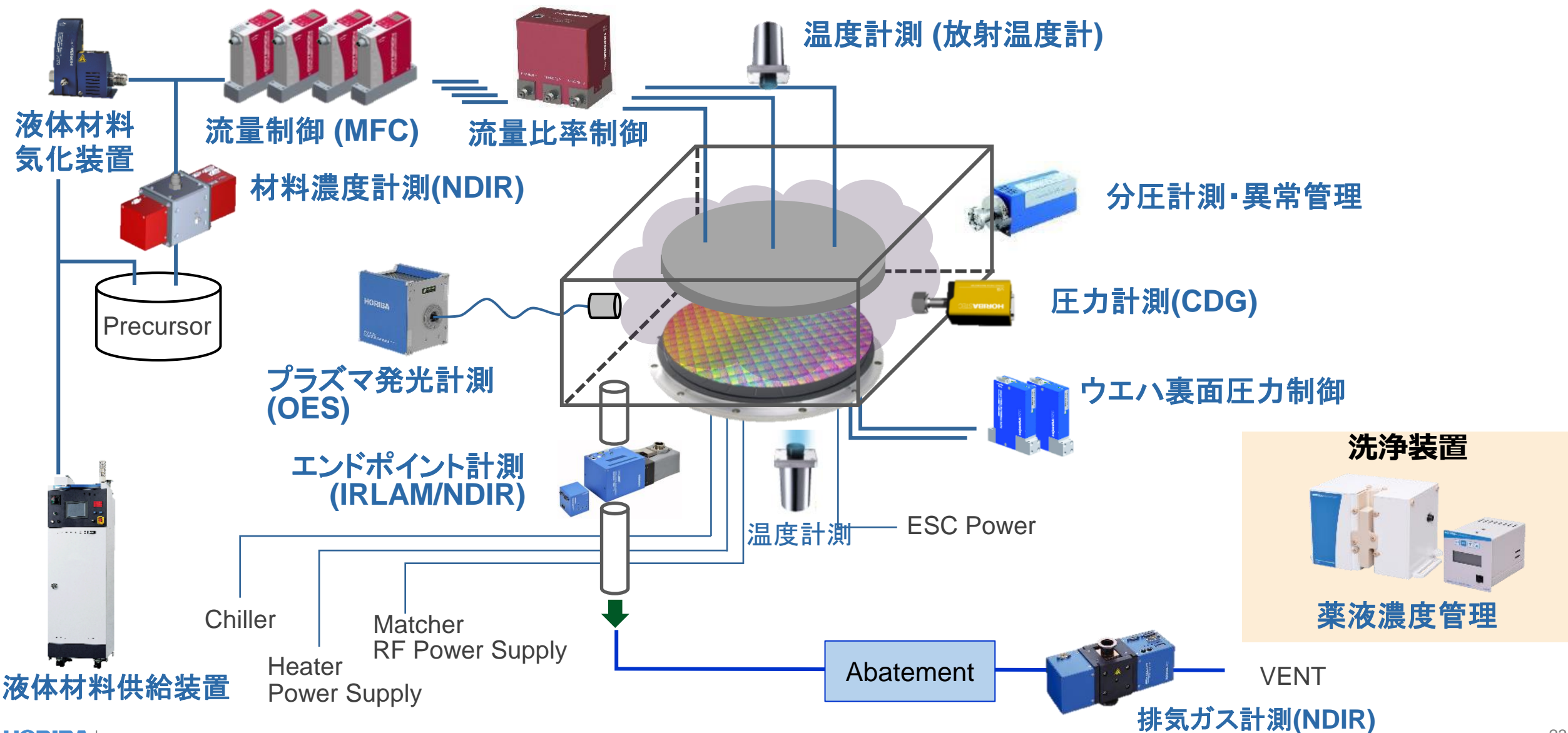
- 装置メーカーに限らずデバイスメーカーへ営業・サービスを強化し直接製品価値を訴求。マーケットシェアの維持・拡大を図る。

HORIBAの戦略

京都福知山市へ新工場設立 & テクノロジーセンター新棟増設



HORIBAの半導体 プロセスコントロールソリューション

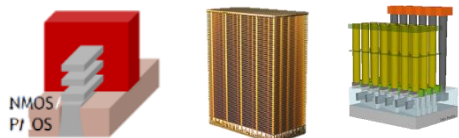


半導体プロセスコントロールの全体戦略

BCP(Business Continuity Plan) = 事業継続計画
GWP(Global Warming Potential) = 地球温暖化係数

プロセス計測・制御は次世代デバイス開発において重要なカギを握る

半導体デバイスメーカーの課題



デバイス構造の
複雑化・微細化

新材料の
計測・制御

ラボスケールから
量産移管への加速

カーボンニュートラル

地政学を考慮した投資
BCPリスクへの対策

半導体装置メーカーの戦略

新Platformにより
生産性と拡張性強化

計測&AI分析による
診断&改善機能強化

環境負荷低減

グローバル拠点
への積極的投資



HORIBAのプロセスコントロール戦略

GAS

- 新工場投資による供給能力拡大
- BCP強化 (2ndサプライヤ体制等)
- 新プロセスガス・低GWPガスの計測ソリューションの強化



次世代圧力式MFC
D700シリーズ

VAPOR

- 新規の液体・固体材料へ対応する液体計測&気化製品開
- 高速応答化によるプロセス時間の削減と廃棄量削減



液体材料気化システム
MV-2000シリーズ

DRY

- 計測ソリューション拡大 (ガス濃度/温度/圧力/プラズマ発光等)
- エッチングプロセスのエンドポイント計測強化



レーザーガス分析計
LG-100

WET

- 特殊薬液へのカスタマイズ強化 (Global WET Lab展開)
- モジュール化開発による機能拡大で複数パラメータの計測・分析



非接触型薬液濃度モニター
CS-900

京都福知山新工場を建設

グループ過去最大額の投資で国内MFC生産能力を現在の最大約3倍まで強化



完成イメージ（外観図）

名称	京都福知山工場
所在地	京都府福知山市三和町みわ小字エコートピア4番1
敷地面積	36,011㎡
延床面積	23,292㎡(2階建て)
竣工	2026年1月
投資額	約170億円

Point
1

長期的な安定供給体制の確立

- ・ MFCや薬液濃度モニターに加え、半導体事業に関連する製品やシステム、半導体事業以外の製品など、幅広い生産を担う
- ・ MFC自動化生産ラインや、搬送ロボット導入など、自動化と効率化を促進
- ・ 約10,000㎡の生産エリアを備え、長期的な需要拡大へ柔軟に対応
- ・ 水素発電を用いた再生可能エネルギーシステムの導入など、工場全体での省エネをめざす。

Point
2

先端技術とのシナジーにより、製品の性能改善および開発サイクルを加速

- ・ 隣接する「京都福知山テクノロジーセンター」との連携により、先端技術を早期実行するシナジーに取り組み



バイオ・ヘルスケアフィールド

株式会社堀場製作所

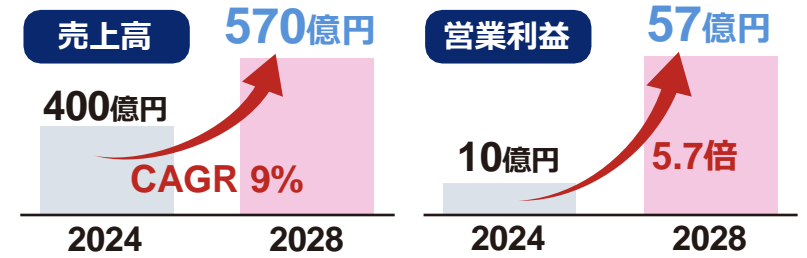
バイオヘルスケア本部 本部長 野村 尚之

2024年6月26日

ビジョン

ユニークなソリューションで、あらゆる生命の「ヘルスケアジャーニー」を変革し、社会価値を創造する

売上高／営業利益

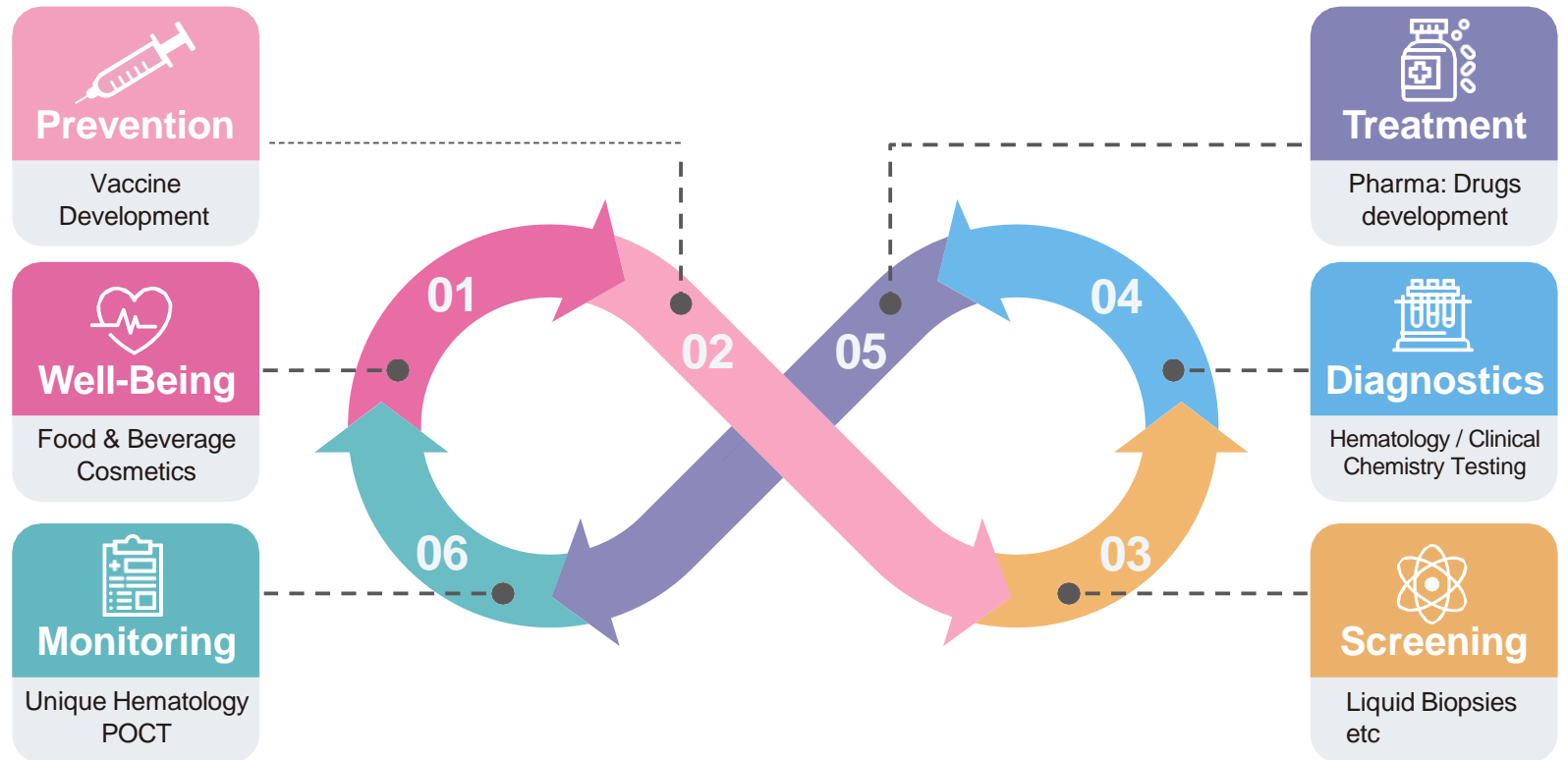


重点事業領域

「ヘルスケアジャーニー」の変革に貢献。検体検査ビジネスでのノウハウ、多様なコア技術、グローバルネットワークを活用し、ユニークなソリューションを提供。POCT*を用いた臨床現場の課題解決や、バイオ医薬品の開発・生産プロセスの最適化等に貢献。

事業戦略

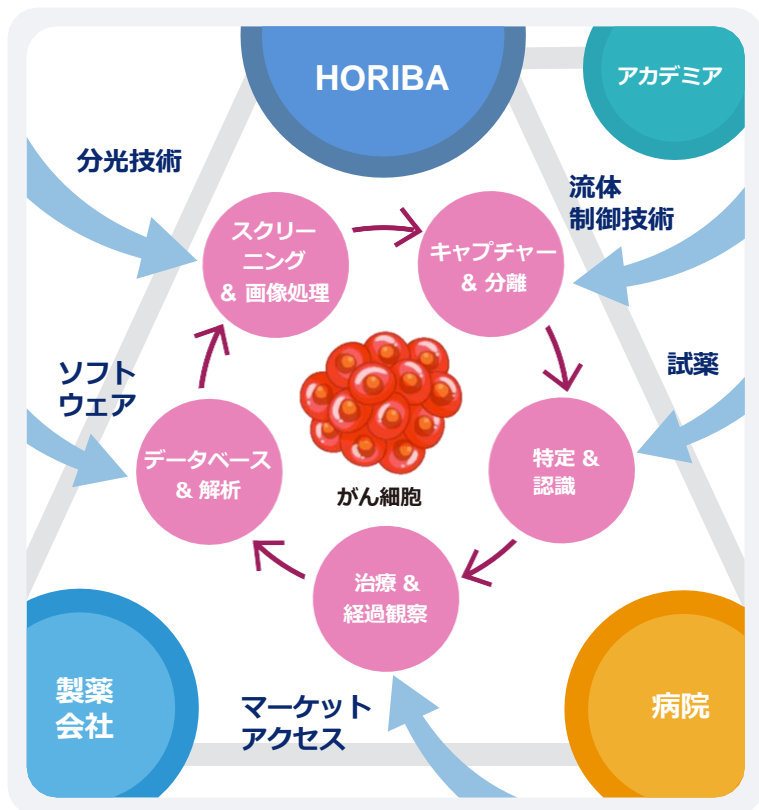
- 新しく生まれるニッチ市場に対して、ユニークなソリューションを提供
- 検体検査ビジネスのローカライズ加速
- バイオ医薬品市場における分析技術・エンジニアリング能力の活用



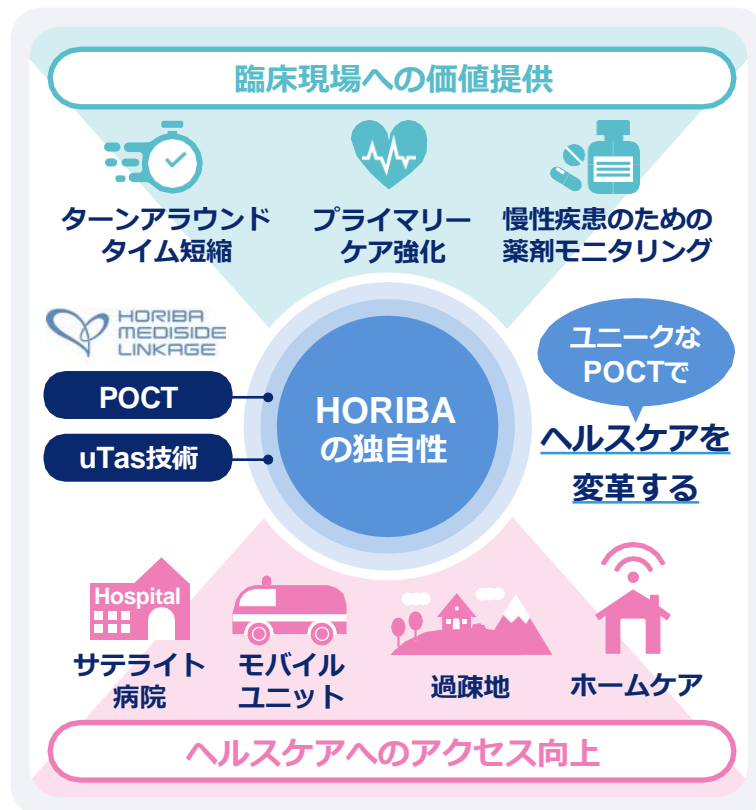
*POCT (Point of Care Testing) …臨床現場即時検査

バイオ・ヘルスケア

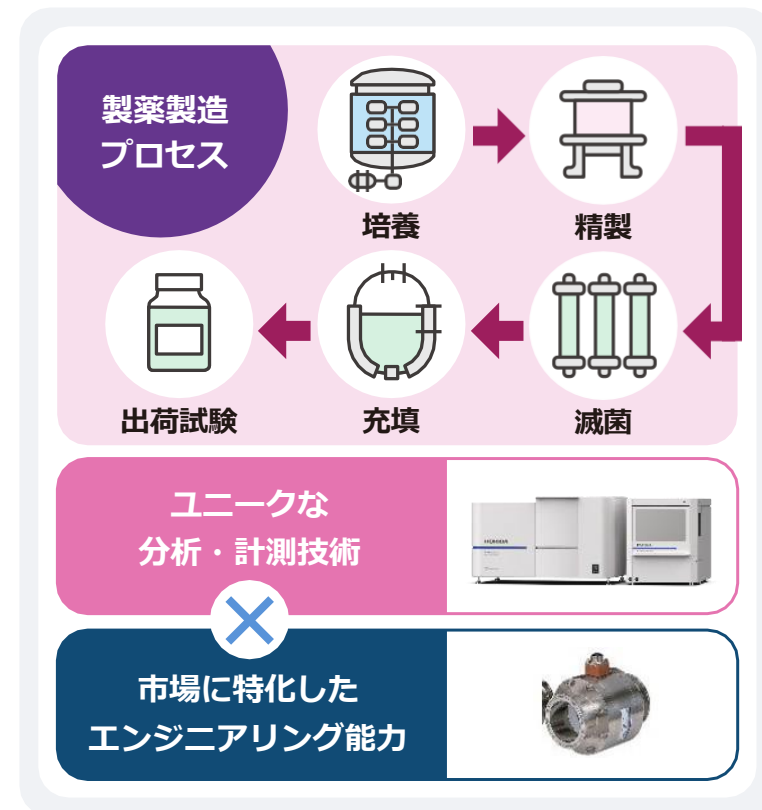
ヘルスケアジャーニーの
新領域への展開
グループの能力を融合
新ソリューションの開発



POCTで医療現場の課題を解決
検体検査ビジネスで培った
ネットワークとノウハウ活用



バイオ医薬品市場向け
プロセスモニタリング
ソリューションの提案



バイオ・ヘルスケア ビジョンに向けて

**未来の成長の
機会創出**

新領域への展開

バイオ医薬品市場への
ビジネス展開

検体検査ビジネスの
多角化

HORIBA内の改革

組織を超えたプロジェクト
で大きな機会を成功させる

新たな市場展開に必要な
マインド・組織変革

**成長を維持する
既存ビジネス**

検体検査ビジネスのローカライズ加速により利益率アップ
Life Science Organicビジネスのグローバルの成長

Life Science Visionと基本戦略



- 安全な医薬品や個別化治療、化粧品、食品などを、効果的かつ迅速に、より多くの人々に提供できるように支援。
- お客様と連携し、革新的で新たな価値を生むソリューションを提供することで、健康と生活の向上に貢献。

バイオ医薬品メーカーのニーズ



分光技術

- 迅速
- 独自技術

エンジニアリング

- お客様のニーズに寄り添う

グローバルサポート

- グローバルサービス

安心安全なバイオ医薬品を
効率的・迅速により多くの人へ

HORIBA
の強み

2028年売上高目標：140億円

【貢献分野】 先端バイオテクノロジー・医薬品研究
➤ 主に科学セグメントのHORIBA既存製品

【貢献分野】 バイオ医薬品の開発・生産の効率化
➤ 対象市場に特化した新製品

バイオ医薬品研究の前進に貢献

ドラッグデリバリーシステム (DDS)

～治療対象領域のみに直接薬剤が作用することを可能に～

細胞外小胞（エクソソームなど）の解析
DDS製剤用分子の開発



粒子計測

細胞培養培地の品質確認

～バイオ医薬品の収率アップ～

細胞培養培地の分析



蛍光分光

抗体医薬品の凝集過程評価

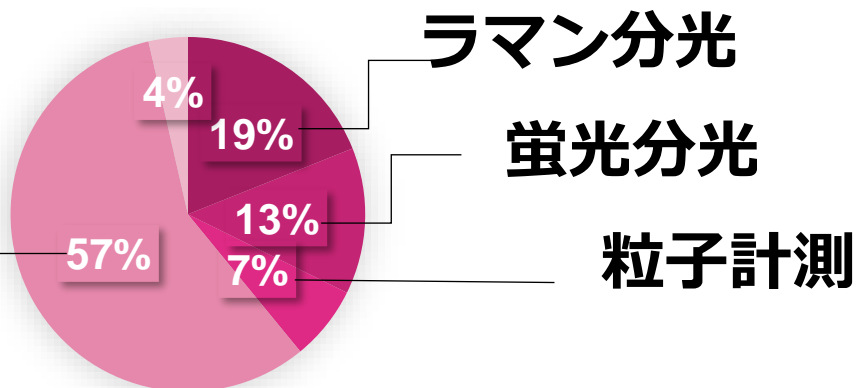
～抗体医薬品の安全性・安定性・効果を担保～

抗体医薬品の最適な製剤条件検討

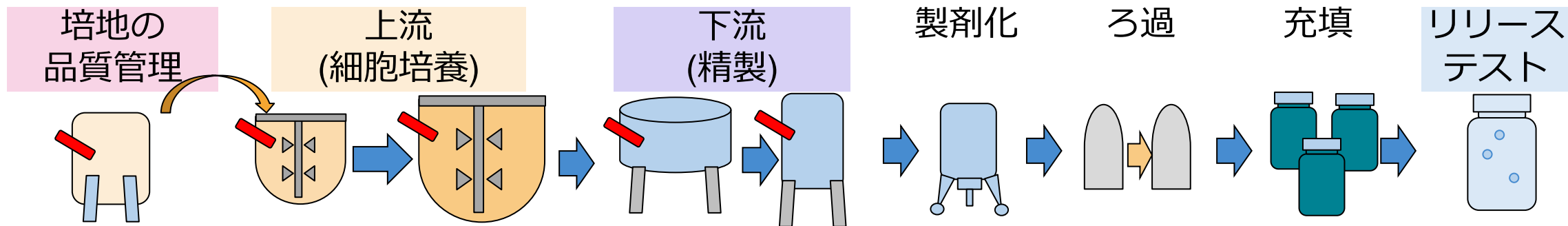


ラマン分光

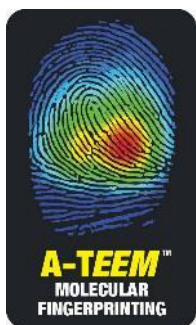
光学・グレーティングソリューション



バイオ医薬品の開発・生産の効率化に貢献



バイオ医薬品 開発・品質管理・製造のプロセス向け専用ソリューションの提供



HORIBA独自の
分析技術

X

顧客要求を実現する
エンジニアリング力

X

市場要求を満たす
ソフトウェア

Data Integrityソフト搭載



Coming soon

Data Integrityソフト搭載



Rapica



Process Raman

Life Science Fieldのまとめ



成長率が高いバイオ医薬品をターゲットに事業拡大

- 製薬市場のキー顧客とのパートナーシップを重視
- HORIBAの多様なコア技術とエンジニアリング力でソリューション提案



注目されているバイオ医薬品研究分野に製品を展開

- 製薬市場へのソリューション展開を見込んで、Key Opinion Leaderとアプリケーション開発
- HORIBAグループ全体の既存科学製品を活用



バイオ医薬品の開発・生産の効率化に新製品で貢献

- 製薬市場向け新製品を複数ローンチ予定
- A-TEEMなどHORIBA独自の技術でバイオ医薬品の開発・生産プロセスの課題解決に適したソリューション



エネルギー・環境フィールド

株式会社堀場製作所

ジュニアコーポレートオフィサー

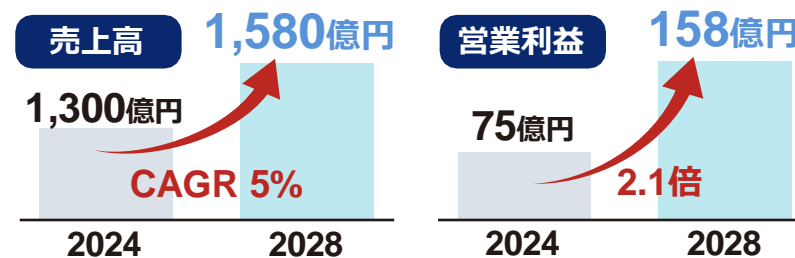
エネルギー・環境本部 副本部長 森 春仁

2024年6月26日

ビジョン

持続可能な地球環境を実現するために、
お客様の課題を解決し、
信頼される真のパートナーとなる

売上高/
営業利益



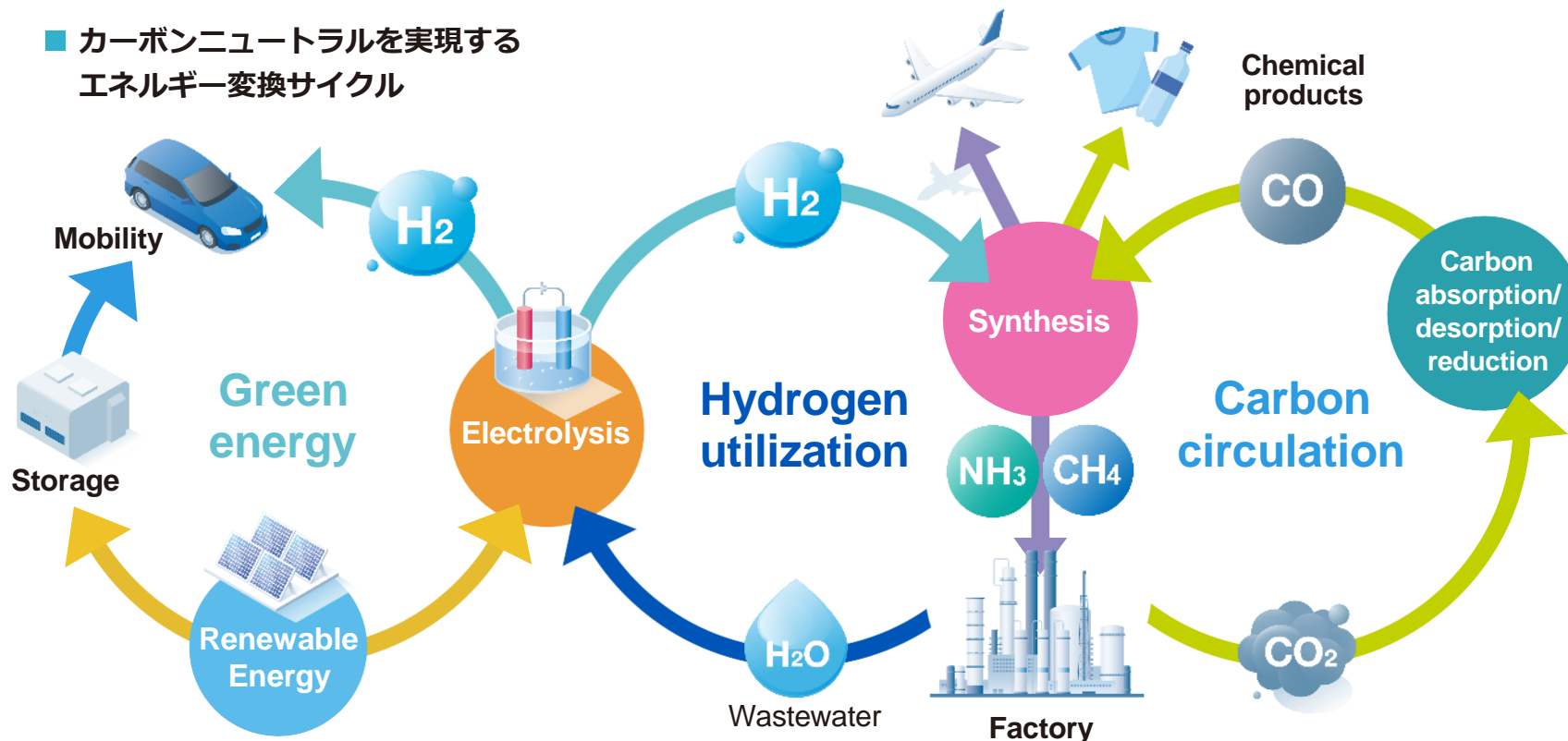
重点事業領域

「カーボンニュートラル」実現に貢献。
研究開発・法規認証等のプロセスに
対して、HORIBAグループが培ってきた
技術と経験を統合し、お客様のニーズに
合わせた最適なソリューションを展開。

事業戦略

- 多様な製品・ソリューションの提供
- HORIBAグループの能力を融合した
新たなビジネスの創出
- システム提案やコンサルティングを軸
にしたトータルソリューションの提供

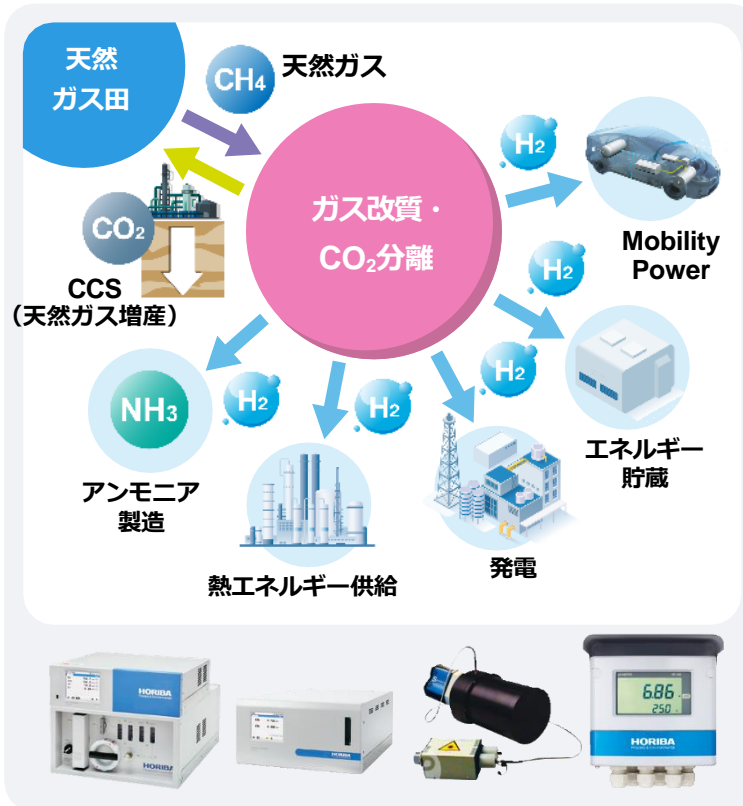
■ カーボンニュートラルを実現する
エネルギー変換サイクル



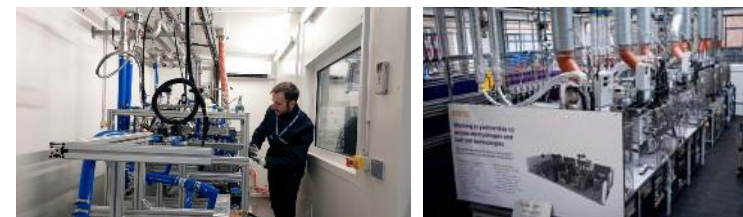
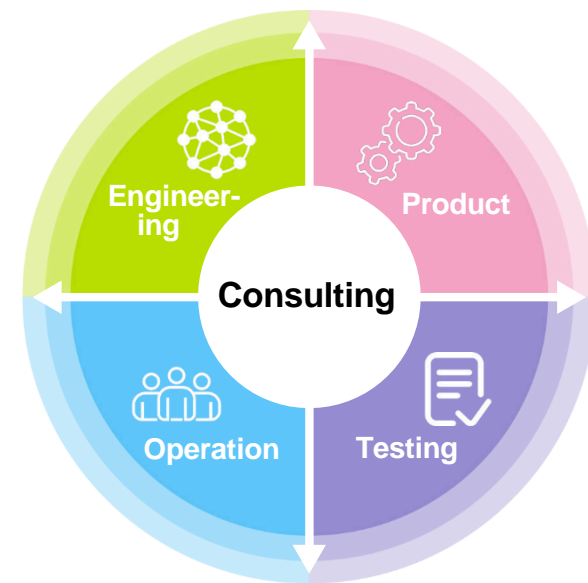
水素市場での事業機会の獲得
グローバルエンジニアリング体制確立



カーボンリサイクル領域における
システム提案の強化

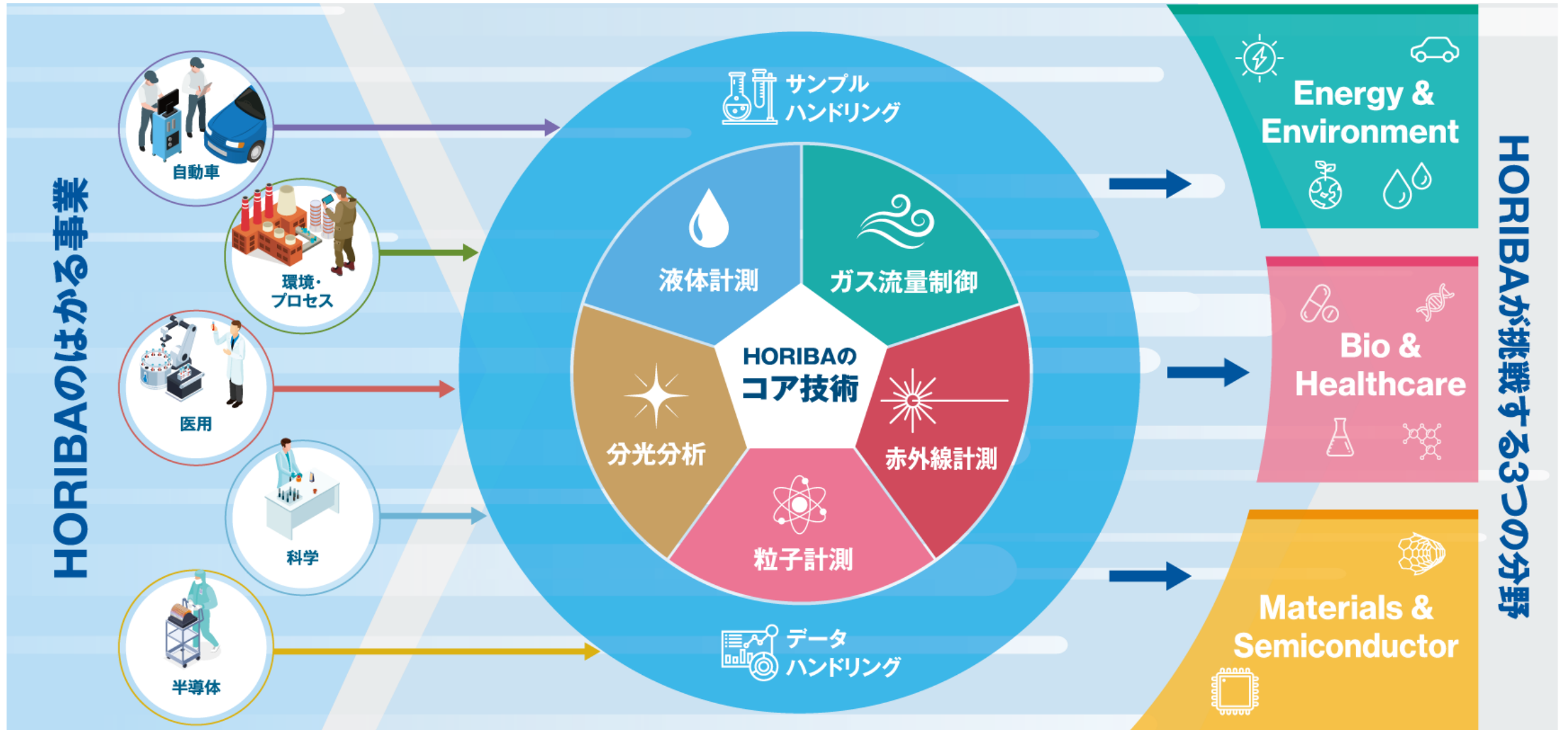


モビリティビジネスに
おける収益性最大化
コンサルティング能力を活用した
トータルソリューション提案



HORIBAの「はかる」技術

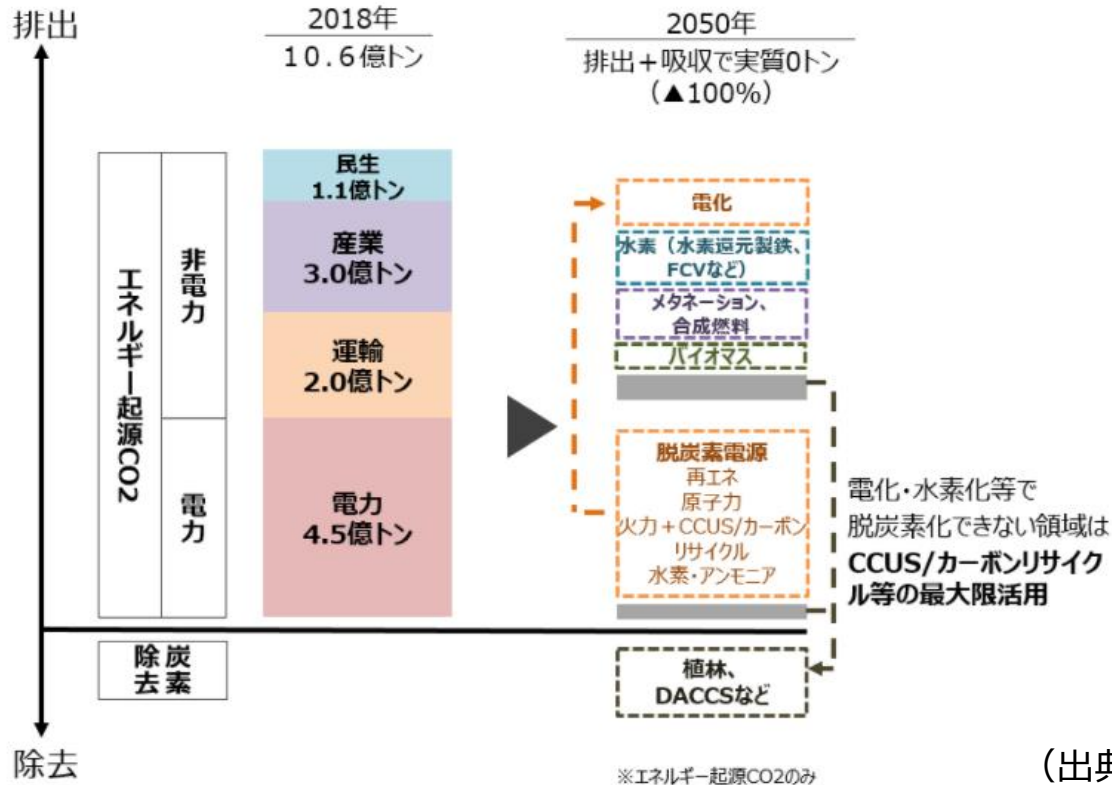
- 5つのコア技術を“分析／計測機器”、“評価装置”へ展開する



カーボンニュートラル実現へのアプローチ

- ① 電力部門の脱炭素化
- ② 非電力部門の電化、水素化（脱CO₂）

日本の温室効果ガス排出量



省エネ・エネルギー利用の効率化

再生可能エネルギーを利用

CO₂の回収・利活用

(出典) 資源エネルギー庁ウェブサイト

https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/johoteikyo/carbon_neutral_02.html

カーボンニュートラル実現に向けたHORIBAの役割

- ✓ 再エネ電力/水素/二酸化炭素の循環で持続可能なエネルギーサイクルが実現
- ✓ 合成・分解の変換プロセスの反応促進、高効率化に貢献していく

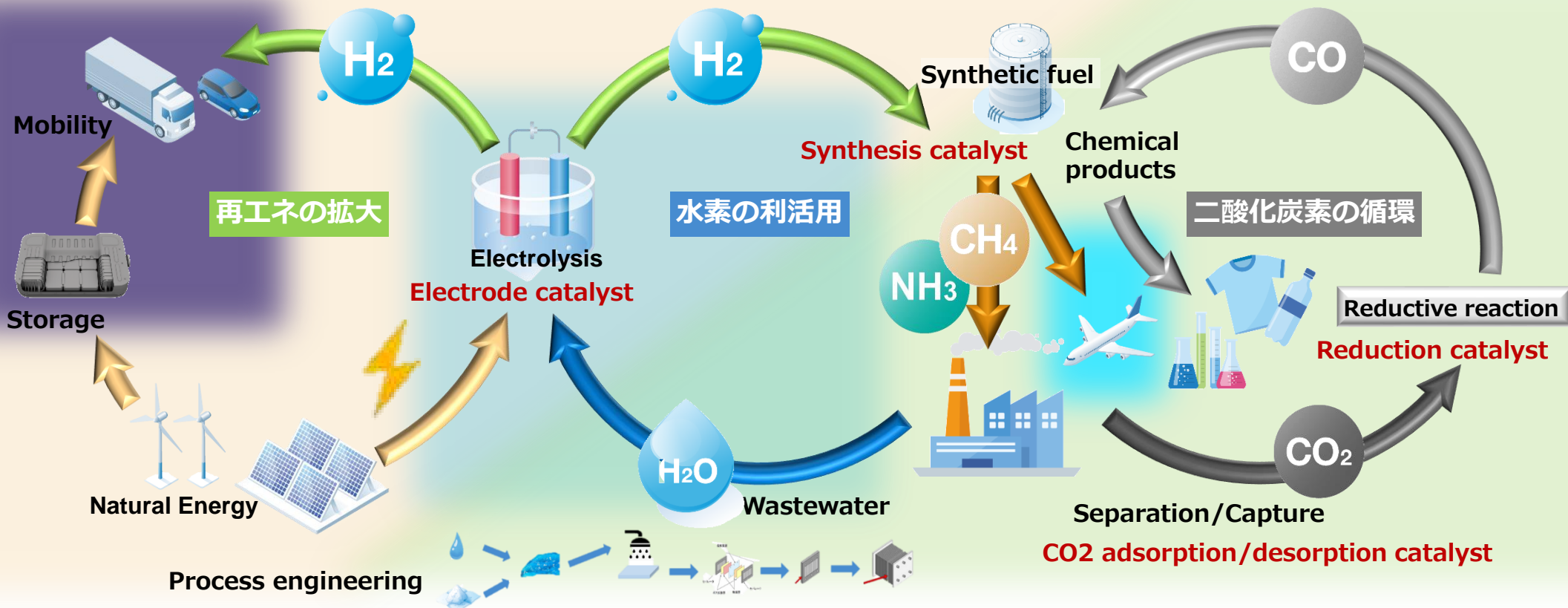
Energy & Environment

モビリティ計測

エネルギー計測

プロセス計測

水計測



エネルギー分野でのHORIBAの投資

✓ 世界の主要市場でのR&D拠点・工場 の設立

Germany

Evaluator

- Fuel Cell
- Battery
- Electrolyzer

China

Evaluator

- Fuel Cell
- Electrolyzer

Japan

Evaluator

- Fuel Cell
- Battery
- Electrolyzer
- Powertrain System
- Energy Mgmt. System

Americas

- Energy & Mobility
- Control Systems
- Evaluator
- Fuel Cell
- Battery
- Powertrain System

eHUB (ザクセン=アンハルト州)

C-CUBE (上海)

E-LAB (滋賀)

HIMaC² (カリフォルニア州)



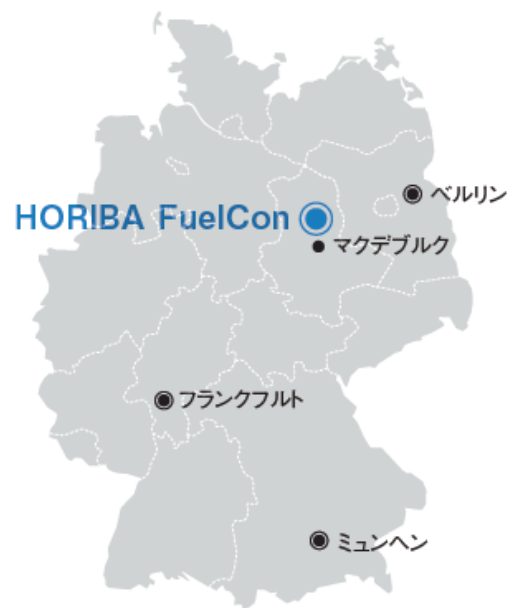
HORIBA eHUB (独マクデブルク)

- ✓ 水素を中心にHORIBAの新エネルギー
ビジネス・グローバルハブ
- ✓ 燃料電池・水電解・バッテリー評価装置の
研究開発／生産拠点

評価装置製品

- 燃料電池 (PEFC, SOFC)
- 水電解 (PEM、SOEC、アルカリ)
- バッテリー
- 生産ライン用装置

稼働開始：2022年4月
延床面積：約10000m²



燃料電池システムの評価設備

燃料電池セル・スタック評価のみならず、システム評価をサポート

- ✓ 燃料電池セル・スタック単体の評価だけでなく、水素供給～冷却～空気供給等の周辺システムの統合評価設備を提供

- ✓ パワートレインと組み合わせたモビリティ用途評価



FuelCell System


モビリティで培った
テストオートメーション
システム(STARS)を応用



Case Study 株式会社本田技術研究所 様




HONDA様の水素事業への取り組み



HONDAは、世界最大のエンジンサプライヤーとして、CO₂排出を減らす、そしてゼロにするという課題を掲げ、早くから水素エネルギーの可能性に着目、1990年代後半から燃料電池の基礎研究を開始し、燃料電池自動車の研究開発に取り組みしてきました。そして今、この燃料電池技術を、幅広く様々な用途に活用することで、カーボンニュートラルの実現へ、より積極的に貢献していきます。

<https://global.honda.jp/hydrogen/>



HONDA 「FCシステム評価設備」ご導入事例
Honda R&D Case study: FC system evaluation system for HONDA R&D Co., Ltd.

<幅広いアプリケーションに対応>
モビリティのみならず定置型システムにも対応

びわこ工場

E-ISLAND

物流・MCT製品調整・検査

琵琶湖

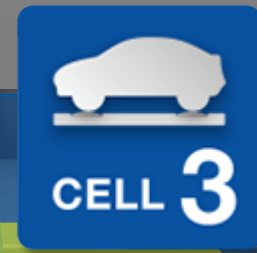
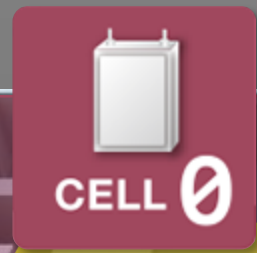
E-LAB

自動車開発試験設備

E-HARBOR

ガス計測分野を集約させた開発・生産拠点

E-LAB



バッテリー/燃料電池試験
仮想バッテリー試験

パワートレイン試験
モータ試験

エンジン試験

車両試験

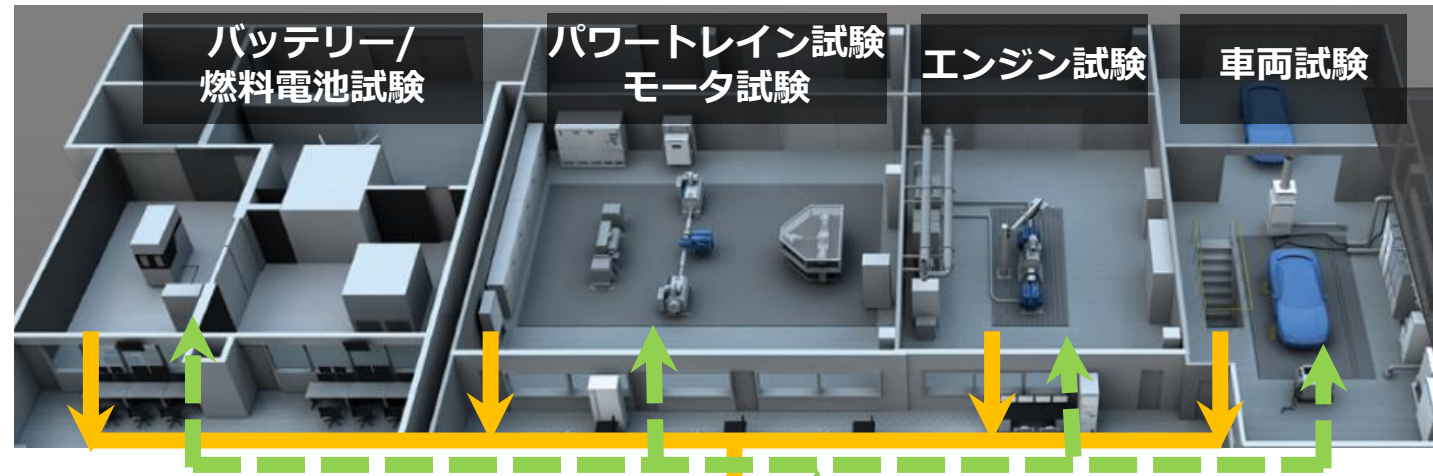
集中管理室

HORIBAの最先端ソリューションを「見て」「使って」
その効果を「体感」できるテストセンター

- ✓ 自動車のパワートレイン開発に求められる機能を集約
- ✓ 自動車に限らず、複合的なシステムプラットフォーム開発の場

HORIBA Test Automation System ~MobilityからEnergy~

- ✓ 自動車産業におけるパートナーとして長年培ってきた分析・計測技術
- ✓ ラボ・データ一括管理システムをエネルギーマネジメントへ展開



様々なデータの可視化

- ・ 設備稼働状況
- ・ CO₂排出量
- ・ 電力使用量
- ・ 電力回収量
- ・ 設備発熱量
- ・ 水素使用量
- ・ 蓄エネ機器の状態

電力データ、
設備状態の把握

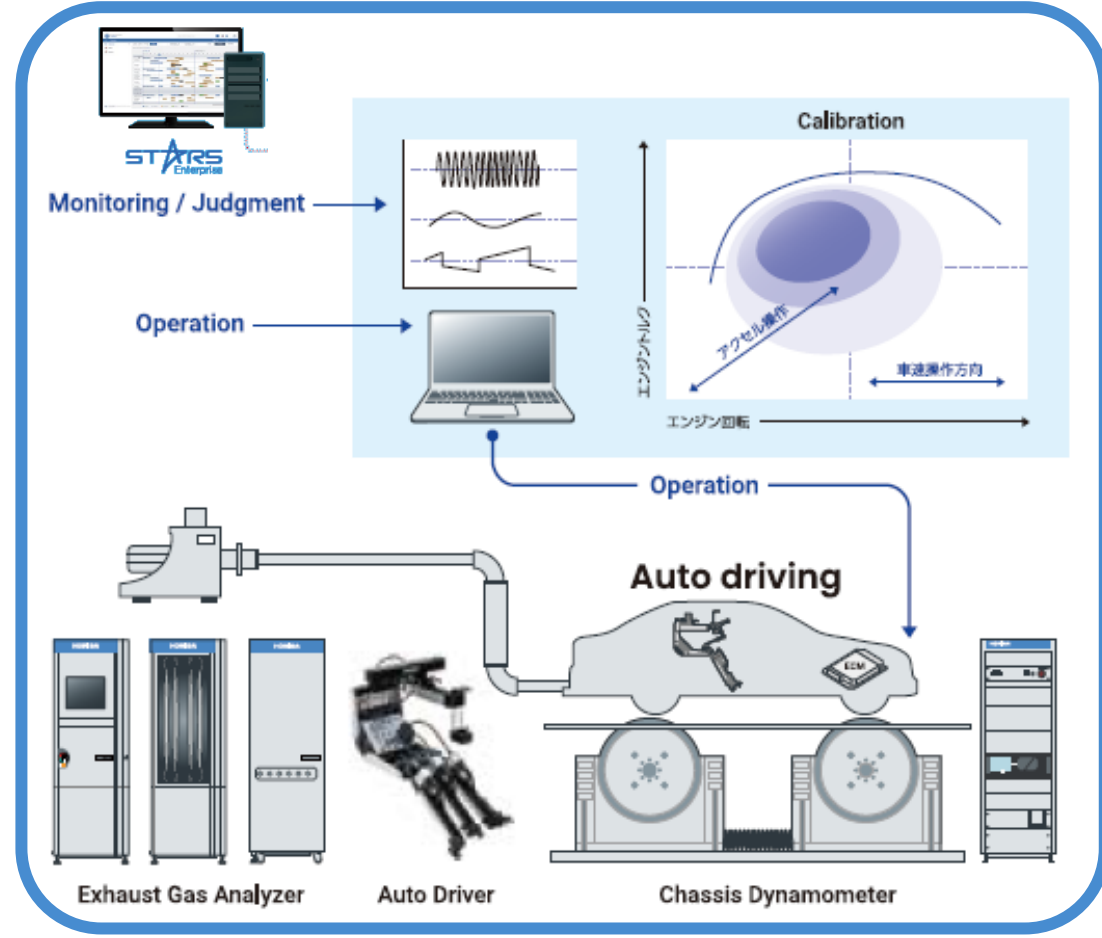
一括制御



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

NEDO

① テストオートメーションシステム



② エネルギーマネジメント

HORIBAは"排ガス"計測をやめません

排ガス新規制導入に向けた各国の動きとHORIBAのアプリケーション



✓ 新型排ガス計測装置開発中

✓ 車載計測
 ✓ 小型ベンチ運用

IRLAM by HORIBA

✓ 既存製品の改造で、強化されるNOx規制にも対応可能

Existing System

Add on

CLA-910M4-SL

MGC OxM

✓ Flex Fuel※開発に向けた各種成分計測に対応

FTX-ONE

MEXA-ONE -XL-NX (NO, NO₂, N₂O, NH₃)

HyEVO

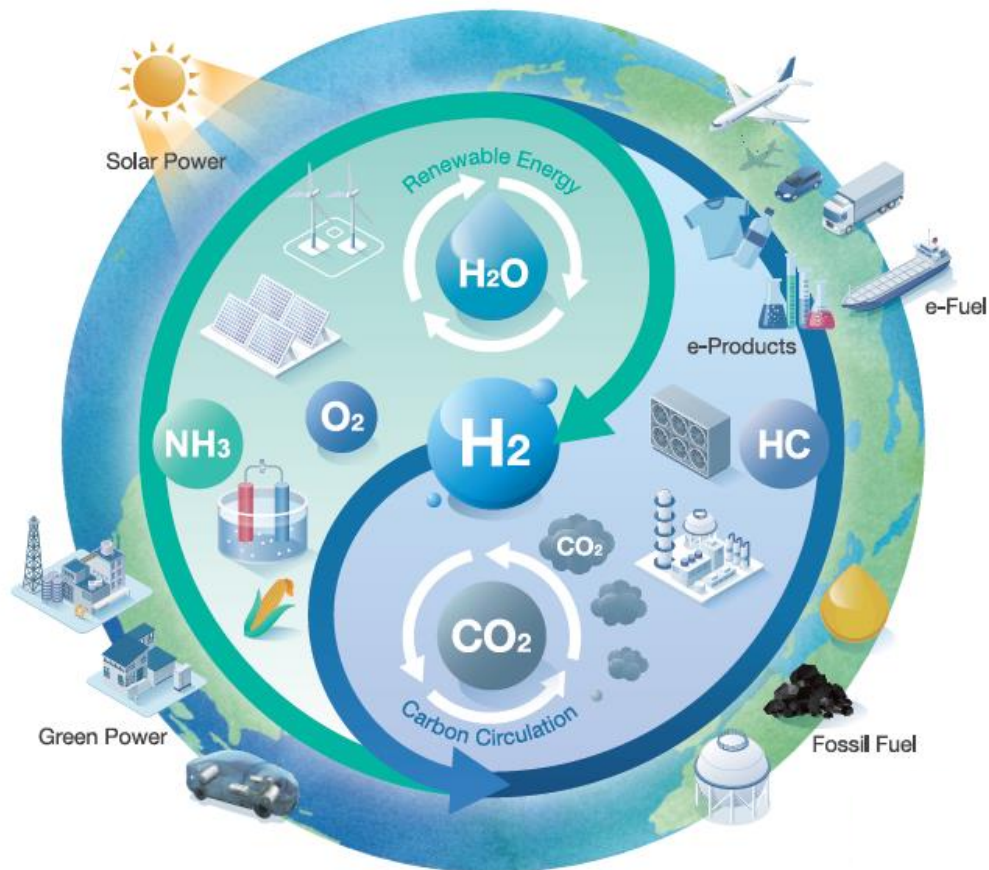
IRLAM by HORIBA

ブレーキダストへの対応

✓ 各国の規制に対応

最後に ～Carbon Neutralの実現に向けて～

- HORIBAは「はかる」技術で新エネルギー・資源循環社会の実現に貢献します



エネルギー利用の効率化 Maximize Total Energy Efficiency

省エネやエネルギー利用効率の向上
DXを活用したエネルギー社会の最適化

再生可能エネルギーの利活用 Utilize Sustainable Green Energy

再エネの電力・熱利用のみならず
電解水素製造を介した利用範囲の拡大

CO₂の回収・利活用 Realize Carbon Capture & Circulation

CO₂を回収し、化学製品・合成燃料の資源として利用

<https://www.horiba.com/jpn/applications/energy-and-environment/>



サステナビリティ・人財

株式会社堀場製作所

ジュニアコーポレートオフィサー 森口 真希

グループ戦略本部 副本部長 上杉 英太

2024年6月26日

ビジョン

HORIBA独自の手法で、持続可能な社会実現に貢献する

HORIBA製品・ソリューション
による持続可能な社会実現

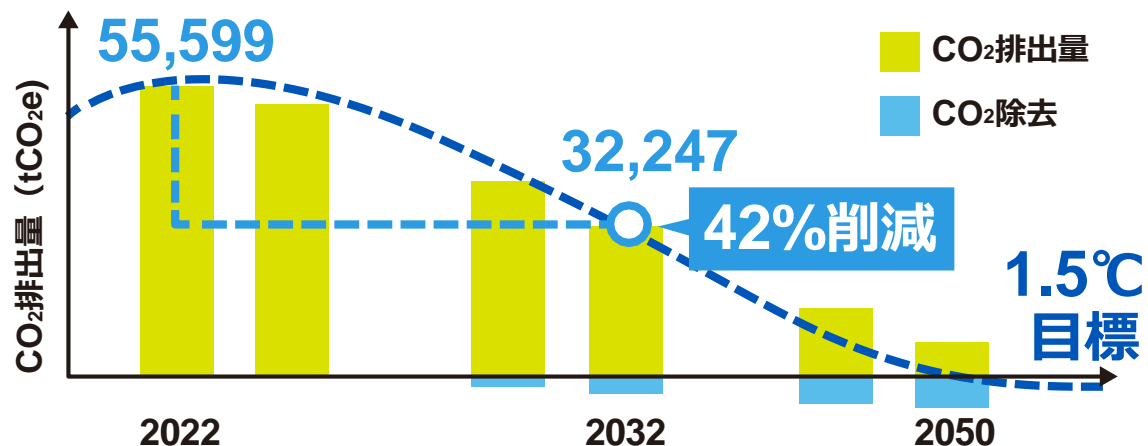
3フィールドにおける
事業活動を通じた社会課題の解決

持続可能な
オペレーションの実現

- 2050年カーボンニュートラル
- 2032年CO₂排出量42%削減
(Scope 1, 2)

「はかる」×「教育」
次世代に継承

科学技術分野での社会貢献活動
2028年 活動年間100件以上
参加者4,500人以上（10か国以上）



3フィールドグループにおける考え方

Energy & Environment

カーボンニュートラル実現に向けたソリューション



自動車燃費向上



燃料電池・水電解装置計測 / 太陽電池開発



CO₂回収・利活用・貯留

Bio & Healthcare

あらゆる生命の健康維持に貢献



医薬品生産コスト削減



医薬品開発・製造の効率化



医療の効率化に検査で貢献

Materials & Semiconductor 新技術開発と半導体生産効率の 向上に貢献

半導体需要拡大

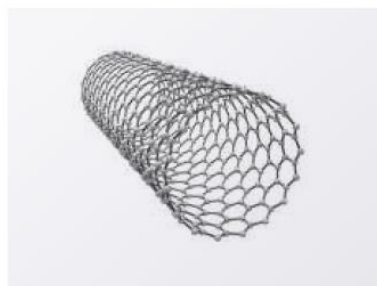


生成AI普及による
計算処理の増大



データセンターの増加

生産性向上と、先端材料開発や有限資源の利活用に貢献



先端材料の重要性
(ポリマー、カーボン、パワー半導体など)



材料レベルでのリサイクル

ホリバリアンの力を最大限引き出す人財戦略

ビジョン

ホリバリアン一人ひとりが「おもしろおかしく」の実践によりその力を発揮し、「ほんまもん」を追求する舞台をグループ全体で創りあげる

力を引き出す「舞台」
ユニークな企業文化

すべてのホリバリアンが
ビジョン・ミッション・バリューを
共有、実践

「ほんまもん」の価値の創出

バリューの実践を通じた
「ほんまもん」の追求
HONMAMON Awardの創設

多様な人財がともに成長・活躍

- 多様な人財のネットワーク形成
- 「学びあい活かしあう」文化の促進



Omoshiro-okashiku
Joy and Fun



Gracias
Danke
Tack ska du ha
Grazie
Danke
Σας ευχαριστώ πάρα πολύ
THANK YOU
ขอบคุณครับ
ありがとうございます
Dziękuję

Terima kasih
谢谢
Terima kasih
धन्यवाद
شُكْرًا
Большое спасибо
Cảm ơn
Merci
감사합니다

HORIBA

本資料は当社の著作物であり著作権法により保護されております。当社の事前の承認なく本資料の全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用すること、および第三者に開示すること（口頭を含む）は無いようお願いいたします。